



Dinosaurs

恐竜博物館ニュース

第20号
2007.3.20

福井県立恐竜博物館

連載：日本古生物学界の生い立ち⑧

目次 ▼連載：日本古生物学界の生い立ち⑧…2~3 ▼博物館トピックス「恐竜ブランドの推進」/行事イベントレポート…4~5

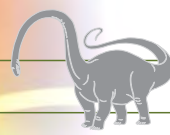
▼研究ノート「南米チリ植物化石調査旅行記」…6 ▼ダイノメイトだより…7 ▼4~7月行事案内/友の会会員募集/編集後記…8



ティラノサウルス・レックス *Tyrannosaurus rex*

竜盤目 獣脚亜目 ティラノサウルス科
白亜紀後期
アメリカ サウスダコタ州





ジュラ紀 アンモナイトの研究-その2

筑波大学名誉教授 佐藤 正

「日本古生物学界の生い立ち」第8回として、
筑波大学名誉教授の佐藤正先生にご寄稿いただきました。

はじめに

ジュラ紀のアンモナイトが意図的に採集され、学術雑誌などに公表されるようになったのは明治20年代になってからのことです。それまでもこんな化石があることは知られていたに違いありませんが、学術的に取り扱われるようになったのはこのころからです。

幻のジュラ紀アンモナイト

しばらく前までは、日本のジュラ紀のアンモナイトを最初にきちんと学術的に報告したのは、ノイマイア(N. Neumayr)というドイツの学者ということになっていました。東大の初代教授だったナウマン(E. Naumann)が明治23年(1890)にウイーンのアカデミーの雑誌に発表した日本の地質に関する論文の中に化石の部分が含まれていますが、これを書いた

のがノイマイアさんです。彼はその中で *Harpoceras japonicum* (ハルポセラス・ジャポニクム) というジュラ紀のアンモナイトが高知県の耳飛田^{みとと}というところから出たと書いています。このアンモナイトはのちのちまで議論を呼び、ある人は「これは三畳紀のアンモナイトだ」といい、またある人は「これはジュラ紀のもので違う属のアンモナイトだ」と主張しました。昭和の初めころに小林貞一さん(東大教授、学士院会員、筆者の恩師)がウイーンまで行って、実物をくわしく見て鑑定し直し、*Haugia* (ハウギア) 属に移しました。同時に標本の保存のされ方や岩質からみてこれは耳飛田のものではない、どこか外国産のものだという判定を下しました。それでこの標本は幻の日本産ジュラ紀アンモナイトになってしまいました。たしかに東大にある石膏模型をみると、日本産とは思えないいい保存状態です。

さて明治20年という年代はすでに東大から地質の卒業生が出だしていたところで、前にも紹介したように神保さんや松島さんが演習報告や卒業論文にアンモナイトのスケッチを載せています。また地質学雑誌といった学術雑誌にはジュラ紀のアンモナイトが産出したことを報ずる記事がときどき載っています。前回紹介した比企さん、伊木さん、井上さんといった方々の記事はそういうものの例です。ところが、産出の記事は層学的には貴重なのですが、写真や絵がない報告はある意味で困った事態を引き起こします。絵や写真がないとその鑑定が信用で

きるかどうかほかの人にはわからないのです。また、アンモナイトは時代を指示する力が優れているので、名前がわかっただけで時代も決まってしまうのですから写真や絵がないと、そこに書いてある属や種の名前を信用するしかなく、それで時代が決まったように勘違いされてしまうのです。そういう例はいくつもあります。

初めてのジュラ紀 アンモナイトの記載論文



写真2. 矢部(1901)が記載した土佐介石山のアンモナイトの縫合線スケッチ

日本の学術雑誌の論文でジュラ紀アンモナイトの記載に始めて絵をつけたのは、おそらく矢部長兎^{ひさかつ}さん(東北大学、文化勲章受賞)です。明治34年(1901)に地質学雑誌の第8巻に発表された「土佐介石山^{ほうこうざん}産アンモナイト」という邦文の論文には縫合線^{ほうこうせん}の絵が添えられています。問題のアンモナイトは牧野富太郎さん(“日本の植物学の父”と呼ばれる植物学者)から贈られたもので、入っていた箱には弘化三年四月二十三日と書いてあって、採集されたのは明治以前だということを示しています。矢部さんは必要なアンモナイトの形の特徴を記した後で、縫合線の形からフィロセラス属のものだろうと書いています。その絵を見るとフィロセラス科のものに特徴的な丸い木の葉の形の切れ込みがあって、鑑定



図1. ノイマイアの書いた *Harpoceras japonicum* 後に *Haugia japonica* と改訂、さらに *Putealicerias* ではないかという意見あり。日本産ではないらしい。



写真3. 明治33年の横山又次郎
(東大総合博物館所蔵)

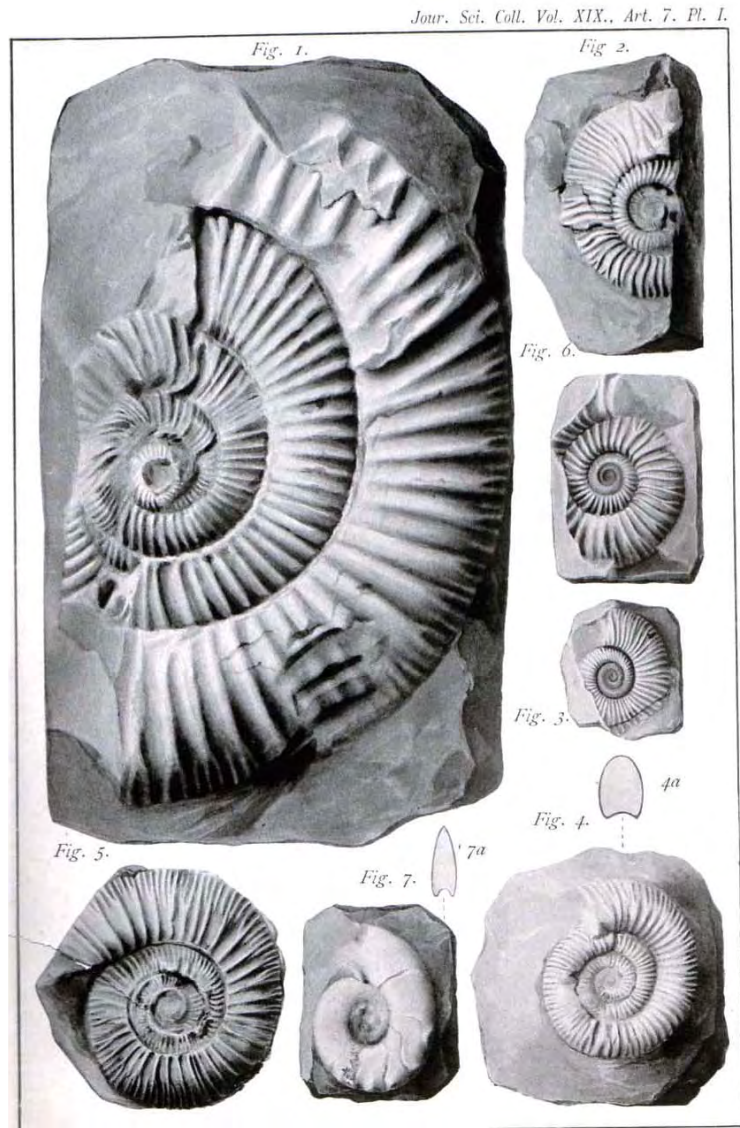
は間違いのないと思われませんが、残念ながら化石の全体を示す絵が描かれていませんので、さらに細かい属の同定はしかねます。矢部さんは時代をはっきり特定していませんが、前期白亜紀層（またはジュラ紀の最上層）だろうと示唆しています。矢部さんのこの報告以後にも、介石山からはいくつかアンモナイトが見つかっていて、それらはジュラ紀のものですので、このアンモナイトもジュラ紀のものだろうと思いますが、残念ながら断定できません。

世界的に通用する英語で書かれた体系的なジュラ紀アンモナイトの記載は、横山又次郎さんの明治37年（1904）の論文が日本で最初です。横山さんはこの年に2篇のジュラ紀アンモナイトの論文を東大紀要に載せています。一つは第18冊第6編（明治37年2月1日発行）の三陸海岸の志津川地方から採集されたアンモナイト5種類で、もう一つは第19冊第20編（明治37年5月15日発行）の九頭竜川上流と長門（今の山口県）の豊浦地方から出たアンモナイト14種類です。もとの標本は神保さんや伊木さんが採集したもので、ご自分で採集したものではなさそうです。横山さんはこれに先立ち明治35年（1902）に「越前産のアンモナイトに就て」という論文と「陸前細浦付近の侏羅化石」という論文を続けてこの順に地質学雑誌に発表しています。両方とも第9巻第110号にしていますが、名前だけで絵も写真

も載せていません。この中で紹介されたアンモナイトの名前は東大紀要の論文のものと同じですから、このころにはもう同定は済んでいたことになります。また東大紀要の論文の中で、前回掲載した松島鉦西郎さんのアンモナイトの絵と同じ標本が使われているのが分かります。絵そのものは松島さんのものと少し違って

天地が逆だったり、標本全体の形が違ったりしていますが、標本そのものは同じであることは明らかです。当時東大にはこういう絵を描く専門家がいたようですが、だれが実際に描いたのか残念ながら分かりません。

[次号につづく]



M. Yokoyama: Jurassic Ammonites.

写真4. Yokoyama (1904)の越前産アンモナイト図版(原著の図版I)左上から時計回りに *Perispinctes* (*Procerites*) *Matsushimai*, *P.* (*Grossouvria*) *Hikii*, *P.* (*Ataxioceras*) sp., *P.* (*Grossouvria*) *Hikii*, *P.* (*Biplices*) *kaizaranus*, *Oppelia echizenica*, *P.* (*Biplices*?) *Kochibei*. 以上の属・種名および表記のしかたは原文のまま

※縫合線：アンモナイトの殻の表面に見られるシダの葉のような複雑な模様。アンモナイトの殻の中をたくさんの部屋に分けている、隔壁と呼ばれる部分と殻とが交わる場所にある。

[前回の記事補筆正。2ページ小藤写真説明に（東大総合研究博物館所蔵）を加える。2ページ最後から3行目、Lyman→Lyman。3ページ左欄17行目、東大教授に→東大教授になる。同じく20行目、北上産地→北上山地]



恐竜ブランドの推進 この一年の取組み

吉田優一郎

入館200万人を突破

国内唯一の恐竜化石の発掘現場に隣接して平成12年7月にオープンした福井県立恐竜博物館は、昨年6月には200万人の入館者をお迎えしました。

勝山市の発掘現場の近くに立地したこの博物館は、公共交通の便は良好ではありませんが、毎年25万人前後の入館者があります。その3割は福井県内から、残り7割は北陸・近畿・東海各県からとなっています。春の大型連休や夏休みなどには東京圏や北海道、九州地域からも多くの入館者が訪れます。

世界三大恐竜博物館を標榜

当館は、カナダのロイヤル・ティレル古生物学博物館、中国科学院古脊椎動物古人類研究所、浙江自然博物館と姉妹提携を結び、学術研究、展示、教育普及、資料収集などで相互交流を深め、アジア地域の恐竜研究の中核施設として貢献しながら世界の博物館や研究機関とのネットワークを拡大し、世界の三大恐竜博物館としての地位を確立していきたいと考えています。

恐竜を福井ブランドとして推進

福井で発見されたフクイサウルスやフクイラプトルの学術発表など充実した研究成果をベースにして、国内最大スケールの博物館を設置した福井県は、国内では「恐竜王国」としての評価を得てきました。

この夏からは第3次の発掘調査を予定しており、新種の恐竜の発見も期待されている中で、「恐竜」を福井県のブランドとしてさらに強力に県内外にPRしていくことも、私たち博物館職員に与えられた使命の一つであります。

恐竜パワーアップ 企画チームを編成

そこで、恐竜博物館を中心に県庁の総合政策部政策推進課、産業労働部観光振興課、

教育庁文化課で恐竜パワーアップ企画チームを編成し、福井県が世界に誇る地域資源である「恐竜」のブランド化を戦略的に進めてきました。

戦略-① 魅力的な来館者サービスの提供

戦略の一つ目は博物館自体のサービス向上です。

恐竜エキスポ2000で閉館し、翌年から夏休み期間に合わせ、毎年趣向を凝らした企画展を開催し、集客を誘っています。姉妹提携博物館である、カナダのロイヤル・ティレル古生物学博物館や中国浙江自然博物館の協力により、さまざまな恐竜たちを展示してきました。平成18年度の企画展は「恐竜以前～エディアカラの不思議な生き物たち～」のタイトルで、地球誕生から恐竜時代までの地球と生命の生い立ちを展示解説し、期間中8万6千人を超える入館者がありました。今年の夏には「恐竜絶滅後の王者～クジラが陸を歩いていた頃～(仮題)」を予定しています。恐竜時代との比較をする中で、生物の進化や地球環境を考えていただくには絶好の特別展です。

また、入館者には展示物への理解を深めていただく工夫が大切と考え、点字解説に加えて音声案内システムも是非導入したいと検討を重ねています。



フクイラプトル模型
「骨格モデル」と「復元モデル」が販売されています

博物館においていただいた方には、ミュージアムショップでのお買い物も大きな楽しみとしていただくよう、昨年夏にフクイラプトルの模型の販売をスタートしたところ、大きな反響をいただき順調な売れ行きとなっています。県産品を活用した恐竜博物館オリジナル商品も開発中であり、一部は発売開始いたしました。また

Webショップも開店しました。恐竜博物館のホームページからもリンクしていますので、こちらもどうぞご利用ください。

戦略-② 魅力的な館外サービスの提供

次の戦略は、博物館に来館することが出来ない方々へのサービスです。

福井県は、日本列島のど真ん中ではありますが、いざ出かけようとなると地理的に容易には来ていただくことができない地域もあります。その場合、こちらから出かけていき、博物館をお見せしようというものです。

昨年4月には、韓国^{ユンソン}の固城郡で開催された恐竜世界エキスポに、当館から恐竜骨格など多くの標本を持ち込み、福井県の恐竜発掘状況をPRしました。また、平成17年に恐竜博物館で開催した特別展「大空に羽ばたいた恐竜たち」を平成18年に北海道旭川市と静岡県浜松市に巡回特別展という形で貸出展示を行いました。

また、博物館の研究スタッフが県内外の小中学校を訪問したり、出前授業を開催したりと誘客活動も始めました。

一方、恐竜博物館に来館されるお客様の3割はインターネットなどで知る、という調査結果があり、年間に23万件のアクセスがあるホームページの充実に気を配ることが大切です。見易さ・分かりやすさを第一に、博物館の研究者が何を調査しているのかもわかるように、博物館スタッフ紹介コーナーを設けました。似顔絵と研究内容も掲載しましたので、ご覧ください。

戦略-③ 企業とのコラボでPR

三つ目の戦略は、広報PRです。

行政は広報という手段でPRするのが定番ですが、広報PRは硬くて面白くないというも定評です。そこで発想の転換、行政機関以外の企業や団体に、恐竜を取り扱っていただければ恐竜や博物館を知っていただけます。

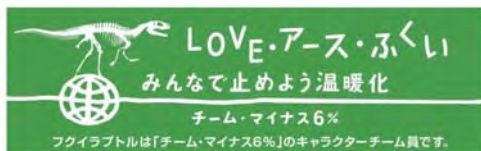
幾つもアタックした中で、ゲーム機メー

カーの(株)セガのキッズカードゲーム「古代王者恐竜キング」のカードデザインに、本県で出土した「フクイサウルス」と「フクイラプトル」が採用されました。全国の子どもたちが、恐竜博物館を訪れ、恐竜・古生物さらには地球環境について広く学びきっかけになることを期待しています。



©SEGA

環境省とのコラボレーションもスタートしました。地球温暖化対策の啓蒙運動として「チームマイナス6%」の推進をしている中で、環境大臣から福井県産の恐竜たちも参加していただきたいとの要請に応じて「フクイサウルス」と「フクイラプトル」がチーム・マイナス6%のキャラクターチーム員になり活躍しています。



親子恐竜化石発掘体験ツアー

昨年夏には、スキージャム勝山と連携してホテルの宿泊者を対象にした「恐竜化石発掘体験ツアー」の募集もし、600人余りの親子に現場での化石発掘を楽しんでいただきました。

地元連携で恐竜切手発行

勝山市役所をはじめ商工会議所、民間団体が連携した「恐竜博物館等活用連絡協議会」が平成17年10月にスタートし、博物館を活用した周辺地域の観光振興とまちづくりを進めています。「恐竜王国・福井」として是非とも「恐竜切手」の発行をお願いしたいと郵政公社に要望を重ねた結果、この3月から日本で唯一の「恐竜切手」がふるさと切手として復刻発行さ



復刻された恐竜切手

れることになりました。地元勝山の方はもちろん県民のみならず、ふるさと自慢としてご利用いただきたいものです。

また、博物館が立地する勝山市長尾山総合公園に恐竜にちなんだ愛称を募集することにしました。この愛称が市民や来館者に親しまれ「恐竜王国」がいっそうアピールされることを期待しています。

年間30万人が目標

博物館運営では、入館者数が評価の大きなバロメーターとなります。当館はオープン以来毎年25万人の入館者を数えていますが、当面の目標を30万人としました。

これまで述べた戦略を懸命に展開し、博物館も進化を続ければ、達成可能と確信しています。

皆様のご支援を、お願いいたします。



福井県立恐竜博物館長
吉田優一郎

(HPで博物館の全職員を似顔絵で紹介しています)

event report 館行事イベントレポート

野外観察会

紅葉の九頭竜湖周辺の地学散歩

日時：平成18年10月22日(日) 9:00～15:00

九頭竜湖周辺は古生代から中生代にかけての地層や岩石が露出しています。観察会では、始めにこの周辺の地層の基盤となっている飛騨変成岩を、国道158号沿いの谷戸口で観察しました。ハンマーで岩石を割って、熱と圧力を受けてできた角閃石片麻岩などの縞状の模様を確認しました。次に石徹白川沿いの手取層群の露頭で中生代ジュラ紀から白亜紀の化石を採集しました。貝皿ではアンモナイトや海生二枚貝のイノセラムスなどの採集を試みました。また、その上流ではカキやシジミなどの汽水生の貝化石を採集しました。その後は、さらに国道158号を東へ進み、

箱ヶ瀬で蛇紋岩と古生代シルル紀の石灰岩を観察しました。この付近は石灰岩が露出していて、白馬洞と呼ばれる鍾乳洞もありました。太古のサンゴ礁を形成していた、この石灰岩からはハチノスサンゴや腕足類、層孔虫などの化石が採れるようです。紅葉には少し早かったけれども静かな秋の一日を楽しみながら散策ができたと思います。

(後藤道治)

恐竜ふれあい教室

親子で恐竜のペーパークラフトをつくらう！

平成19年1月6日(土) 13:00～15:00

フクイラプトルとフクイサウルスのペーパークラフトは子供たちに福井の恐竜に親んでもらうため、平成18年3月に当館オリジナルとして作られました。

通常A4サイズに印刷されたもの(出来上がりは約20cmほど)を切って、糊で貼り合せてい

くのですが、今回は通常より少し大き目のA3サイズ(出来上がりは約30cmほど)のものを作って頂きました。

4歳～小学3年生までのお子様体験されましたが、線どおりに切るという作業は少々難しかったようです。親子で協力し合って一生懸命作っている姿がとても印象的でした。

恐竜が完成するとあちらこちらで恐竜を待ちながら「ガオー」と鳴き声を真似する声がかえってきました。

恐竜の卵や巣、川、植物、家など、それぞれ好きなように色々な部品を作り、最後には立派なジオラマ作品となっていました。自分の作品の出来映えにとっても満足そうな子ばかりで、きっと家に帰って飾ってくれているのではないかと思います。

(砂子英恵)



南米チリ植物化石調査旅行記

寺田 和雄

平成18年12月26日から平成19年1月28日まで、文部科学省の科学研究費補助金による海外学術調査のメンバーの一人として、植物化石の調査に行ってきました。なぜ南米の植物化石を調査するのでしょうか？南米大陸は、中生代に南半球に存在したゴンドワナ大陸という超大陸が分裂したことによって形成されたと考えられています。ゴンドワナ大陸は、今のアフリカ大陸、南米大陸、南極大陸、オーストラリア大陸それにインド亜大陸が一つになった巨大な大陸です。ゴンドワナ大陸では恐竜を始め、多くの動植物が繁栄し、南極も今のような氷に覆われた大陸ではなく、温暖で森林が発達した環境だったと考えられています。このゴンドワナ大陸が中生代の終わりごろから分裂を始め、現在のような大陸の配置になりました。南米の植物化石を調べることによって、大陸移動や南極が寒冷化する過程での植物の分布や植生変遷を明らかにすることができます。

パタゴニアでの調査

南米大陸の南の端、南緯40度よりも南側をパタゴニアと呼んでいます。まず、年末から年始にかけて、このパタゴニアで調査に入りました。ちょうどこの時期は南半球では真夏にあたります。しかしながら、南極に近いパタゴニアは、真夏でも寒く風が強く、セーターや上着が手放せません。



リエスコ島での調査（昼食にカップラーメンを食べる。）

チリ南部の町プンタアレナスから、四輪駆動車を2台借りて調査に入ります。まず、プンタアレナスに近いリエスコ島に行きました。これ以上先には人が住んでいな

い一番奥の牧場の小屋に寝場所を借りました。毎日皆で自炊します。使用する水も泥水で、ヨコエビなどが繁殖しています。その水を沸かして料理や飲み水に使います。昼は川の水を沸かしてカップラーメンを食べます。このリエスコ島では、多くの木材化石や植物化石を採集することができました。次に、少し北に移動して、セロドロテアというところで調査を行いました。ここは2年前の調査でもナンキョクブナという種類の木材化石をたくさん見つけたところです。今回の調査で、以前わからなかった地層中の木材化石を発見でき、化石の時代が明らかになりました。



セロドロテアで発見したナンキョクブナの木材化石（薄片の顕微鏡写真）

恐竜の森へタイムスリップ

パタゴニアでの調査を終えて、チリ中部でも調査に入りました。調査を終えた最終日、ナブエルプータという国立公園に行きました。このナブエルプータ国立公園は、チリマツが群生していることで有名です。



恐竜時代を彷彿させるチリマツの森（ナブエルプータ国立公園にて）

チリマツとはナンヨウスギという針葉樹の仲間です。その木の形（樹形）は特徴があり、木が成長すると枝が上の方にのみ付き、下の方の枝が落ちてしまったり（下部写真）。この特徴ある樹形を持つ木が、恐竜時代を描いた絵には必ずと言って良いほど登場しています。これは恐竜時代の地層からナンヨウスギの仲間の化石が発見されるためです。しかし、化石は葉や球果（松ぼっくり）、幹などがバラバラに出てくるので、化石からは樹形はわかりません。恐竜時代にこのような樹形を持った木があったかは不明です。でも、あまりにも奇妙な樹形のため、恐竜時代の復元に登場しているのです。初めて入ったチリマツの林は、恐竜時代にタイムスリップしたような気になります。岩盤の上に、ニョキニョキとチリマツが群生しています。恐竜時代に生きていたと思わせるほどの硬い甲羅のような樹皮を持ち、葉が密生した枝も、植物というよりは動物といった感じを与える植物です。

チリの植物化石の調査は、充実したものになりました。今後は、採集した化石の研究に取りかかり、恐竜時代から現在までの植生の変遷を明らかにしたいと考えています。



ダイノメイトだより

ミュージアムショップがリニューアルしました!!

ダイノメイトだより、第1回目は昨夏リニューアルしたミュージアムショップを紹介したいと思えます。さてどんなところが変わったのか、店長さんにうかがってみましょう。



——「よろしくお願ひします。」

店長「店長の島田です。よろしくお願ひします。」

——「さて、具体的にはどんなところが変わったのでしょうか？」

店長「そうですね。グッズの品揃えを大目見直して入れ替えました。いわゆるPOSシステムを導入しましたし、レイアウトも少し変更しました。」

——「どんなグッズが人気ですか？」

店長「Dino BOX (2,100円) や生まれる恐竜のたまご(315円)がよく出ていますね。ノートや鉛筆など文房具も売っています。」



恐竜博物館オリジナルグッズやロイヤル・ティレル博物館のグッズもちょっと高めですが根強い人気ですね。あと、リニューアルと同時に発売した海洋堂のオフィシャルモデル・フクイサウルスフィギュア (2種・各1,000円) も恐竜博物館でしか買えないということで、買って行かれるお客様が多いです。」

——「店長さんイチオシのグッズはありますか？」

店長「新商品のオリジナルサファリHATやめずらしい迷彩柄のオリジナルCAPがおすすりめですね。実は私もサファリHATの方を買いました。ひとつひとつ手作業で作ら

れているので、とてもキレイな仕上がりになっているんですよ。」

——「なるほど、確かにしっかりしていますね。私も欲しくなっていました。ところでインターネットでオンラインショップを開設されたそうですが。」

店長「そうですね。以前からの懸案だったんですがやっと実現しました。お客様の声を聞くとやはり博物館は遠いから利用しにくいというのです。オンラインショップは実際のお店から比べれば品揃えこそ少ないですが、人気商品やオリジナルグッズを中心に掲載しています。ぜひご利用ください。」

——「今日はどうもありがとうございました。」

ミュージアムショップオンラインショップ
<http://vivid-site.jp/fukui/shop/>

舞鶴で出前PR展大成功に終わる

平成18年度最終の恐竜博物館出前PR展を2月22日～25日まで舞鶴市の市政記念館ホールで開催しました。今回は「NPO法人赤煉瓦倶楽部・舞鶴」の主催で開いたところ、土日には連日2,000名を越す子供づれの市民が訪れて、恐竜骨格標本の組み立て体験や恐竜折り紙実習を楽しみました。会場に使われた由緒ある赤煉瓦の建物とフクイサウルス、フクイサウルスの骨格標本がよく調和して太古のロマンを大いに掻き立てました。

赤煉瓦倶楽部の馬場理事長から、今後更に規模を大きくした恐竜展を開きたいのでご協力いただけると有難いと礼状が届きました。



新年度のダイノメイト行事

詳細・お申し込み方法につきましては、4月中旬以降ダイノメイト会員様宛お知らせいたします。

(1) 平成19年度海外恐竜体験の旅の案内
今年は微笑みの国タイを訪ねて、サイアムティラヌス・イサンネンシス(白亜紀前期)やプウィアゴサウルス(竜脚類)、6月開館の恐竜博物館、恐竜研究センター等を専門家の案内で見学します。

実施時期/平成19年8月22日(水)～26日(日)
参加費/158,000円(大人子供同額。リピーターの方は153,000円)

見学地(予定)/

- プウィアン国立恐竜公園 (発掘現場、恐竜博物館)
- カラシン (ワットサン発掘地、恐竜博物館、DMR恐竜研究センター)
- プーフエク国立公園 (足跡化石)

(2) 博物館の発掘調査に参加
福井県勝山市北谷の恐竜化石発掘現場で、博物館調査員と共に発掘調査に参加します。

実施日時

- 体験コース/平成19年7月27日(金)、28日(土)、8月3日(金)、4日(土)
- 実践コース/平成19年8月1日(水)～3日(金)

参加資格

両コースとも、ダイノメイト会員に限る。体験コースは小4年以上で、中学生以下は保護者同伴(会員に限る)。実践コースは、大学生または社会人。

募集人員/体験コース 各日10名(保護者も含む) 実践コース 5名



行事案内

4月～7月

所定の方法にて、行事名、氏名、年齢、住所、電話番号を、博物館までご連絡ください。
 開催日の一ヶ月前から受付を開始し、定員に達し次第締め切らせていただきます。ただし、申し込み多数の時は抽選となる場合があります。
 ※当館Webサイトの行事案内ページ (<http://www.dinosaur.pref.fukui.jp/event/>) もご覧ください。

福井県立恐竜博物館2007年度特別展
■恐竜絶滅後の王者 (仮題)
 -クジラが陸を歩いていた頃-
 期間: 2007年7月13日(金)～10月8日(祝)

特別展関連行事

特別展講演会
■「イルカとクジラがたどってきた道(仮題)」
 日時/7月15日(日) 14:00～15:30
 講師/オタゴ大学(ニュージーランド)
 フォーダイス教授
 場所/講堂
 ※申し込み不要です。

特別展ツアー
 日時/7月16日(月祝) 13:00～14:30
 内容/特別展の素晴らしい標本について、詳しく解説します。
 担当/後藤 道治 場所/特別展示室
 定員/20名 申込/電話、FAX、E-mailにて

博物館セミナー
恐竜博物館をもっと知ろう!
 申込/電話、FAX、E-mailにて 場所/研修室
-生命の歴史1- ヒシから手足へ
 日時/5月20日(日) 13:00～14:30
 内容/3億6千万年ほど前に水中生活から陸上で生活するようになった脊椎動物の進化の様子を紹介します。
 講師/一島 啓人
-生命の歴史2- 太古の海の生き物たち
 日時/6月17日(日) 13:00～14:30
 内容/展示を題材に海の無脊椎動物(背骨を持たない生き物)の歴史をひもときます。
 講師/佐野 晋一
-生命の歴史3- 哺乳類時代の暖かい楽園
 日時/7月22日(日) 13:00～14:30
 内容/恐竜博物館の展示から、恐竜絶滅後の暖かい時代と、奇妙な哺乳類について紹介します。
 講師/宮田 和周

博物館自然教室
 申込/往復ハガキ、E-mailにて
■「植物のミクロの世界をのぞいてみよう!」

日時/5月27日(日) 10:00～12:00(午前の部)
 14:00～16:00(午後の部)
 内容/博物館周辺でいろいろな植物の花粉や胞子を採集し、電子顕微鏡で観察します。
 担当/矢部 淳 場所/実習室
 対象/小学生以上 午前・午後とも10名

■「恐竜化石をミクロな目で観察しよう!」
 日時/6月24日(日) 13:00～15:00
 内容/恐竜の骨のつくりを、化石を加工し、顕微鏡で観察を行います。マクロな恐竜のミクロな世界をのぞいてみましょう。
 担当/柴田 正輝 場所/実習室
 対象/小学生以上 20名

■「恐竜化石発掘現場見学」
 日時/7月28日(土) 13:00～15:00
 内容/恐竜化石発掘現場へ行き、地層の観察や発掘体験を行います。
 場所/恐竜化石発掘現場
 対象/小学4年生から一般 40名
 受付は6/28～7/12まで、抽選にて参加者を決定します。

■「南米チリ南部の木材化石を調べよう!」
 日時/7月29日(日) 13:00～15:00
 内容/南米チリの南部で採集した木材化石の薄片を作って内部を観察します。
 担当/寺田 和雄 場所/実習室
 対象/小学生以上 20名

野外観察会
 申込/往復ハガキ、E-mailにて
■「足羽川沿いの地学散策」
 日時/6月3日(日) 9:00～16:00
 内容/足羽川に沿って見られる恐竜時代の地層などを観察します。
 場所/福井市美山町～池田町 定員/20名

恐竜ふれあい教室
 申込/往復ハガキ、E-mailにて
■「親子で化石のレプリカをつくろう!」
 日時/4月22日(日) 13:00～15:00
 内容/石こうを使って、アンモナイトなどの化石の複製をつくります。
 担当/小島 啓市 場所/実習室
 対象/4歳から小3の親子 15組
■「親子で恐竜のペーパークラフトをつくろう!」
 日時/4月29日(日) 13:00～15:00
 内容/フクイサウルスやフクイラプトルのペーパークラフトを親子で作ります。



担当/砂子 英恵

場所/ガイダンスルーム
 対象/4歳から小3の親子 30組
■「親子で化石のレプリカをつくろう!」
 日時/7月21日(土) 13:00～15:00
 内容/石こうを使って、恐竜やアンモナイトなどの化石の複製をつくります。
 担当/柴田 正輝 場所/実習室
 対象/4歳から小3の親子 15組

コンピュータ教室
■「恐竜キーホルダーをつくってみよう!」
 申込/往復ハガキ、E-mailにて
 日時/5月13日(日) 13:00～15:00
 内容/恐竜の絵や描いた絵からキーホルダーを親子で作ります。
 担当/千秋 利弘 場所/実習室
 対象/4歳から小3の親子 15組

ギャラリートーク開催
 当館研究スタッフが、展示標本を前に30分程度のお話をします。開催日時、集合場所等、当館ホームページのイベント案内をチェックしてください。

ダイノメイト会員を募集しています。
 平成18年7月から子供会員(小・中学生)を新設し、年会費も以下のように改定しました。

一般会員…年額2,000円(据え置き)
子供会員(小・中学生) ……年額500円(新設)
家族会員(同一世帯で5人まで) ……年額3,000円(500円値下げ)

有効期間は7月1日から翌年6月30日までとし、毎年更新するものとします。郵便振替用紙に、住所、氏名、生年月日、会員の種類を記入されて下記口座に振り込んで下さい。(手数料はご負担願います)
 郵便振替口座 00770-9-47730
 加入者名 福井恐竜博物館後援会
 ダイノメイト

編 | 集 | 後 | 記 |

恐竜博物館のある長尾山公園も例年になく、木々の芽吹きが早いようです。今年はほんとうに過ごしやすい冬でした。この暖冬と関係があるのか定かではありませんが冬期間の入館者の数も大幅に多くなっています。いずれにしても大変嬉しいことです。また訪れたい博物館をめざして大いに頑張りたいものです。
 (伊藤一康)